

研究所だより

第329号

2013年3月22日

発行：土佐清水市教育研究所

TEL 82-3016

<1年間ご苦労様でした>

過ぎ去ってみれば1年というのは早いものです。この1年間の学校経営、学級経営、教科経営等、本当にご苦労様でした。

この春をもって退職された先生方、また、中学校統合ということもあって、たくさん先生方が在任校を離れ、清水を離れることになりました。在任中は、子ども達のためにご尽力をいただき感謝申し上げます。また、清水の教育の発展向上に努めていただき、先生方が残された教育実践を大事にしていきたいと思ひます。

退職をなされた先生、この異動で新天地に行かれる先生、現任校に在籍される先生、今後益々のご活躍をご期待申し上げます。

<平成25年度 市教研関係>

1, 教研推進委員

地区	担当校	役職	組織	部署等	役職
東部地区	下ノ加江小学校	委員	渭南教組	教文部長	委員長
中部地区Ⅰ	清水小学校	委員	市教組	教文部長	副委員長
中部地区Ⅱ	清水中学校	委員	校長会	校長会会長	副委員長
半島地区	中浜小学校	委員	教育委員会	指導主事	事務局
西部地区	下川口小学校	委員	教育研究所	研究員	事務局

2, 教研日程

組織教研	4月25日(木)	15:00~	全体会・部会
一日教研	8月21日(水)	9:00~	全体会・部会
半日教研	11月6日(水)	13:30~	部会
総括教研	1月31日(金)までに		部会

3, 平成25年度 第1回教研推進委員会

平成25年4月16日(火) 15:30~16:45

4, 部会希望調査及び教研推進委員の提出締切

平成25年4月5日(金)までに(メールまたはファックスにて)

5, 部会構成員は5名以上、但し、技能教科については3名以上を原則とする。

<休校への思い>

今春で休校となる4中学校。子ども達は仲間と共に学んだこと、遊んだこと、そして共に成長した学舎を生涯忘れることはないでしょう。個々それぞれが心の奥に思い出の1ページとして刻み込んでいることと思ひます。

子ども達にとって、新天地での学校生活には私たちに計り知れない期待、不安があるでしょう。その期待や不安に応えることのできるのは学校に携わる教職員で

す。新校舎の中で、多人数の仲間と共に学び合う喜びや大切さを感じさせる取り組みをしていくことで不安を解消し、期待が現実味を帯びてくることになるでしょう。

また、地域の文化の発祥地としての学校。地域ぐるみの学校として、長い歴史を刻んできた地域の核。地域を支え、地域に支えられてきた学校。地域の方々にとっても、朝夕の子ども達の姿を見られないことは寂しいかぎりだと思ひます。しかしまた、地域の方々には、いつまでも我が母校、地域の学校として心の中に刻み込まれていることでしょう。

<研究所勤務を終えて>一田中 聡子

今年度の異動で研究所勤務を終えることとなりました。研究所での2年間、適応指導教室の子どもたちや保護者の方と関わることで、一人ひとりの課題に寄り添うことがいかに大切かを再認識することができました。また、研究協力校の校内研修にも参加させていただき、Q-U分析と構成的グループエンカウンターを活用した学級経営について見識を深めることもできました。特にエンカウンターを小学校、中学校で実践させていただいたことは貴重な体験でした。これから学校現場に戻って、この経験や研修を少しでも子どもたちに返すことができるよう頑張りたいと思ひます。2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

<私は、あすなる教室へ行けるようになって、すごく明るくなった>

私は、現在、あすなる教室へ行っています。

私は、中学1年生の9月頃から学校へ行っていない。理由は、いっぱいあって書けませんが、その頃は、すごく辛かったのだけは、覚えています。

ある時、担任の先生に、あすなる教室を勧められていくようになりました。

最初は、生活リズムを改善するのが、とても難しかったですが、教室の先生達といろいろな話をしたり、卓球をしたりして過ごしていくと、初めて(生きてて、良かった。)と思えるようになりました。

たまに、疲れて休む時があるけど、私はあすなる教室へ行くようになって、生きてて良かったと前向きに考えるようになったし、人生が180度変わりました。

あすなる教室では、勉強をしたり、学校へ少し登校したりして、苦しい時があるけど、私は今、とっても幸せな毎日を過ごしています。

今の私の夢は、将来、女優と歌手になりたいです。

女優になりたいと思った理由は、憧れの女優のドラマを見て、感動して自分もやってみたいと思ったからです。歌手になろうと思った理由は、歌が好きなものもあるけど、歌は人を励ましたり、心をつかむことができるからです。

一流の女優と歌手になるには、並大抵のことではないけど、今は、その夢に向かってつき進みたいです。

この作文は、昨日、あすなる教室に通っている通室生(中2・女)が、今の自分の思いを書いたものです。彼女を取り巻く様々な環境の中で、ひたむきに前に進んでいこうとしている姿が彼女から窺えます。内に秘めたその思い、子ども達の持つ無限に広がる可能性を大事にしたいものです。